

# 新得・空想の森映画祭

## 「やっとこしくで上映」

帯広在住  
田代監督

### 木陰に食の広場も

【新得】第十三回SHINTOKU空想の森映画祭（実行委、北海道新聞社など主催）は十四日、同映画祭をスタッフとして支えてきた帯広市在住の田代陽子監督の初作品「空想の森」などを上映した。会場の新内ホールの前庭では、新得の味覚を堪能する「食の広場」も開かれた。

（佐藤元彦）



カシワの大きな木の下で、のんびりと新得の味覚を楽しむ来場者

「空想の森」は町内で農業を営む二組の夫婦の暮らしを追ったドキュメンタリー。同映画祭を通じた田代監督と人々との結びつきが、撮影の原点となった。映画のラストでは、映画祭への思いを込めて新内ホールを取り上げたシーンが、さわやかに描かれている。同作品は今回の目玉とあって、会場は約百人の観客で満席に。すでに東京での劇場公開などを行っているが、田代監督は「やっとこしくで上映できてうれしく思っている」と、上映前のあいさつをした。カシワの大きな木の下で行われた食の広場では多くの来場者が町内の農畜産物を使った料理を味わいながら会話を弾ませた。夜は道内を拠点に活動するアフリカンパーカッションユニット「NDANAN(ダナ)」のライブなどで盛り上がった。

最終日の十五日は海外二作品を上映後、町内で農業を営みながら音楽活動をしている宇

井ひろしさんのライブなどを行う。スペースヤルゲストとして、留萌市出身の歌手あがた森魚さんも参加予定。